

学力向上のために

福島県教育センター所長 津 田 俊 晴



〔筆者紹介〕

津 田 俊 晴・つだとしはる

昭和 八年 伊達郡霊山町に生まれる

〃 三十年 福島大学学芸学部卒業

〃 四十八年 県立若松商業高等学校教諭

〃 五十四年 県教育センター指導主事

〃 五十五年 県教育庁総務課主任管理主事

〃 五十七年 県教育庁高等学校教育課相双駐在

管理主事

〃 五十九年 県教育庁総務課主幹

〃 六十一年 県立本宮高等学校長

平成 元年 県教育センター所長

学習指導のねらいは、学力をつけることにあると、一般的に考えられているが、どんな学力をつけるのかとなると、それに対する答えは様々であるように思える。

ご存知のように、指導要録においては、各学校の学習指導の到達させるべき内容の観点として、「知識・理解、技能、関心・態度」等をあげているが、受験準備教育が過熱しすぎてい

る世の中にあつては、学力を、テストでいい点数をとる力と近視眼的に考える人もけっこう多いように思われる。

しかし、決して学校教育では、そればかりを追求しているものではないのである。いうまでもないことであるが、学習指導において大切なことは、学習の結果よりも、その結果をもたらす過程の指導である。学校は、正しい学び方を指導し、子どもに自ら学ぶ力をつけるところでなければならぬと思うものである。

学び方には、学ぶ内容、その客観的対象によって規定された